

第6学年道徳指導案

平成17年10月28日(火)2校時

6年3組(男14名 女16名 計30名)

指導者 八屋 真樹

- 1 主題名 人や社会のために (4-(4) 勤労、社会奉仕、公共心)
- 2 資料名 よみがえれ日本海 (出典 学研)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

第5学年及び6学年の内容項目4-(4)は「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをする。」となっている。この内容項目は、仕事に対して誇りや喜びをもち、働くことの意義を自覚し、進んで社会に役に立とうとする心をもった児童を育てるものである。この内容項目は、第1学年及び2学年の内容項目4-(2)「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして家族の役に立つ喜びを知る。」と、第3学年及び4学年の内容項目4-(2)「働くことの大切さを知り、進んで働く。」を受けたものである。そして、中学校の4-(5)「勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。」に発展していくものである。

私たちは人とのたくさんのかかわりの中で学校生活や社会生活を営んで生きている。お互いが力を合わせ、助け合い、手を携えて共に生きてこそ、よりよい社会が実現できるのである。そのためにも、社会の一員として、人のために進んで役立つことをしようとする社会奉仕の心を育てることがとても大切なことである。

この期の児童は働くことの意義やお互いに協力し合うことの大切さについては理解している。しかし、自ら進んでそれに取り組もうとするまでにはいたっていない。そこで、社会のために役に立つことができるようにすることが大切であり、勤労に積極的に取り組もうとする気持ちを育てることが大切である。

(2) 児童について

本学級の児童は、中学生との地域清掃や委員会活動、地域の行事などを通して奉仕活動を経験し、働くことの意義や喜びについて感じ取ることができている児童も多い。「ボランティア」についても、「人の役に立つことだ」「いいことだ」という考えを持っている児童がほとんどである。しかし、普段の生活の中では、学校や学級の決められた仕事だからやる、言われたことだからやる、という傾向が強く、自分から社会や人のために役立つ活動に気づき、その活動に積極的に取り組もうとする意識にまでは至っていない。

そこで、勤労が自分のためだけではなく、社会生活を支えるものであることを理解し、社会への奉仕活動など公共のために役に立つ活動に目を向け、積極的に取り組めるような意識を持たせることが大切である。また、そのことから得られる喜びをもとに、社会に奉仕する心構えを育てていきたいと考える。

(3) 資料について

本資料は、1997年に起きた、ナホトカ号重油流出事故に取り組んだ人たちの実話であり、NHKテレビ「プロジェクトX」で放送された内容を読み物資料としたものである。ドラム缶3万本分の重油が押し寄せた海岸では、地元の漁師たちをはじめ全国からやってきたボランティアたちが、真っ黒な重油をひしゃくとバケツリレーで黙々とすくっていった。そして、30万人ものボランティアの手で「死んだ」と言われた日本海は青さを取りもどし、よみがえったのである。

本資料は、全国から集まったボランティアの人たちの姿や思いを通して、社会に役立つ大切さについて考えさせ、社会奉仕活動に積極的に取り組もうとする気持ちを育てることのできる資料である。

(4) 授業の構想について

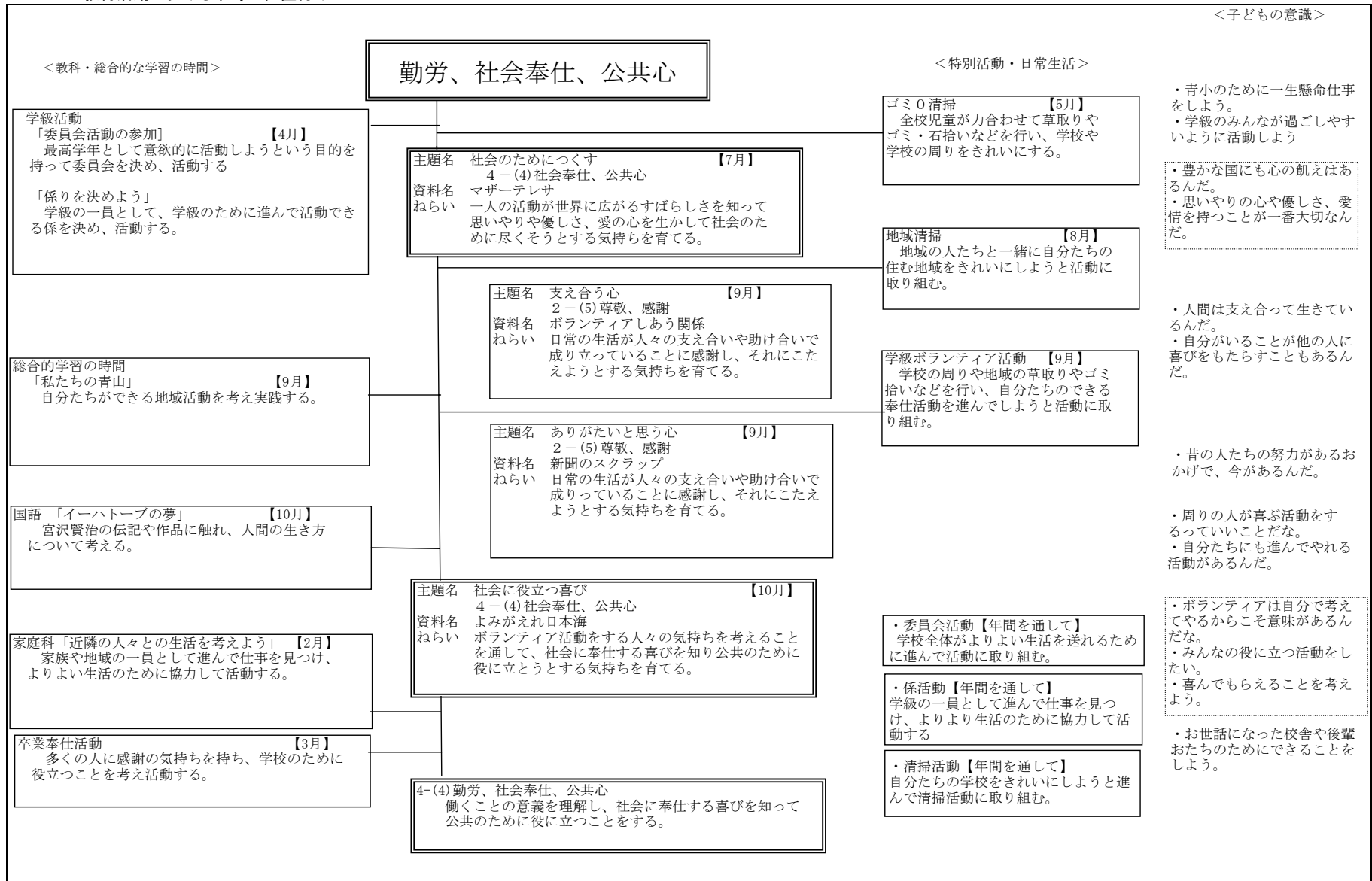
本授業は研究の視点「体験活動を生かす」を授業に取り入れたものである。

「気づく」段階で中学生と一緒にいった地域清掃活動や学級でのボランティア活動での体験を段階で想起させることにより、

「深める」段階でのボランティアの人々や自分からボランティアセンターを作って活動した長谷川さんの思いを自分たちの体験と結び付けて考えさせたい。また、それを通してボランティアの本質について考えたり、ボランティアの人々の社会に役立った喜びを感じ取らせ価値に迫っていききたい。そして、「見つめる」段階では、自分達の行ってきたボランティア活動について振り返らせ、自分ができることを考えて地域や社会のために役に立つことが大切であることをとらえさせ、その活動に積極的に取り組んでいこうとする意欲を持たせたい。

「まとめる」段階では、中学生から見た自分たちの活動に対する考えを紹介することで、今後の更なる実践意欲の高まりを期待したい。

4 全教育活動における本時の位置付け



5 本時の指導

(1) ねらい ボランティア活動をする人々の気持ちを考えることを通して、人や社会に奉仕する喜びを知り進んで公共のために役立とうとする気持ちを育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点や支援
気づく 8分	<p>1 ボランティア活動をした経験について話し合う。</p> <p>○地域清掃に参加してどんなことを考えましたか。</p> <p>2 資料の状況を確認し、感想を発表し、学習課題を設定する。</p>	<p>・たくさんゴミが落ちていて大変だった。</p> <p>・暑くて大変だった。</p> <p>・きれいになって気持ちよかった。</p> <p>・寒くて大変なのに、ボランティアに参加してすごい。</p> <p>・重油で真っ黒だった海がよみがえったなんてすごい。</p>	<p>・ボランティア活動をしたことへの感想をもとに、価値への導入を図るとともに、学習意欲を高める。</p> <p>・資料は事前に読んでおき、ビデオ映像を見せることで、重油で真っ黒になってしまった日本海の様子や、真冬の海岸での困難な作業の様子をつかませる。</p> <p>・ボランティア活動への感想をもとに課題を立てる。</p>
<p>ボランティアの人たちは、どんな気持ちで三国町を去って行ったのだろう。</p>			
深める 25分	<p>3 「ボランティアの人たち」の気持ちを中心に考え話し合う。</p> <p>○すくってもすくってもおしよせてくる重油を見たとき、ボランティアの人たちはどんなことを考えましたか。</p> <p>○長谷川さんはどんな気持ちでボランティアセンターを作ったのでしょうか。</p> <p>○長谷川さんはどんな思いで緑ちゃんに「ご苦労様、緑。よくがんばったね。」と声をかけたのでしょうか。</p> <p>○ボランティアの人たちはどんな思いで三国町を去って行ったのでしょうか。</p>	<p>・重油をなんとかしてなくしたい。</p> <p>・寒さとおいがきつい。大変だ。</p> <p>・本当に重油を採りきれんのだろうか。</p> <p>・自分は役に立っているのだろうか。</p> <p>・とらなければ、この海はもうだめかもしれない。</p> <p>・見ているだけでは、海は元通りにはならない。</p> <p>・重油をなんとかしてなくしたい。</p> <p>・元の景勝地の姿を取りもどすぞ。</p> <p>・自分も何かできることをしなければ。</p> <p>・役場は電話の対応だけで精一杯だ。</p> <p>・地元の私たちが受け入れ組織を作らなければボランティアに来てくれた人たちが動きが取れない。</p> <p>・自分で考えて活動したんだな。えらいぞ。</p> <p>・みんなのためになにかをしようことに気づけたのか。よかった。</p> <p>・もとのきれいですき通った日本海に戻せてよかった。</p> <p>・ボランティアに参加してよかった。</p> <p>・きついこともあったけど、やり通せた。</p> <p>・困っている人がいたらまたどこかで働こう。</p>	<p>・真冬の日本海の状態を押さえ、大変な作業状況であることと、不安になる人々の気持ちをつかませる。</p> <p>・行動を起こした長谷川さんの思いを考えさせ、社会や人のために進んで役に立ちたいという気持ちに気づかせたい。さらに61歳男性、21歳女性にもふれ、学級ボランティアをし始めたときの気持ちと合わせて考えさせながら、自分ができることを生かして働こうとする気持ちにも気づかせたい。</p> <p>・緑ちゃんが自分で考えてボランティアできたことを喜ぶ長谷川さんの気持ちを考えさせ、自分で考えたことを実行することが大切だということを感じさせたい。</p> <p>・「また会おうね」という言葉からボランティアの人たちの心情をとらえ価値に迫ると共に、学級ボランティアをし終えたときの気持ちも合わせて考えさせ、役に立った喜びを感じ取らせたい。</p>

見 つ め る 7 分	4 自分たちの社会奉仕について考える。 ○これまでの自分たちのボランティア活動を振り返って今どんなことを思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつでも自分たちから気づいて活動できたことはよかった。 ・自分達の住む地域のことを考えて活動を工夫して行きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会に生きる一員として、自分ができることを考えて積極的にかかわっていくことが大切だということをとらえさせ、役立つことを考えて取り組んで行こうとする意欲を持たせたい。
ま と め る 5 分	5 まとめをする。 ○中学生からのメッセージを聞きましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの活動も役に立って喜んでもらったんだ。 ・役に立つっていいことだな。 ・自分から進んでやってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奉仕活動をしたときの様子を見た中学生からの感想を読み聞かせ、これからの実践への意欲付けをする。

6 板書計画

人や社会のために

よみがえった海の写真

「よくがんばったね、緑」
自分で考えて活動できたんだ。
みんなのためににかしようと思っけたんだ。えらいぞ。

長谷川さん
見ているだけではだめだ。自分でも何かしなければ

よみがえれ日本海

ボランティアの人たちは、どんな気持ちで三国町を去って行ったのだろう。

たくさんボランティアの人々

六十一歳男性
二十一歳女性

汚れた海で作業する写真

- ・すくつてもすくつてももくもくと働き続けた
- ・なんとかしよう
- ・元の姿を取りもどすぞ
- ・寒いしきつい。大変だ
- ・本当に終わるのだろうか

- ・もとのきれいな日本海に戻ってよかった。
- ・やりとおせてよかった。
- ・ボランティアに参加してよかった。
- ・困っている人がいたらまたどこかで働こう

7 資料の分析

- (1) ねらい ボランティア活動をする人々の気持ちを考えることを通して、人や社会に奉仕する喜びを知り公共のために役に立とうとする気持ちを育てる。
 (2) 資料名 よみがえれ日本海 (出典 学研)

<p>主な場面</p>	<p>「ナホトカ号」が沈没し、ドラム缶3万本分の重油が流れ出した。地元の漁師や町の人たち、全国からのボランティアが集まり、活動を始めた場面</p>	<p>長谷川さんがボランティアセンターを作る場面</p>	<p>長谷川さんの次女みどりちゃんが、200枚のステッカーを売った場面</p>	<p>30万人ものボランティアの手で日本海の青さがよみがえり、ボランティアたちが去る場面</p>
<p>把握すべき状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県三国町は景勝地で有名なところだ。 ・タンカーが沈没し、ドラム缶3万本の重油が流れ出す大事故が起きた。 ・浜は凍りつきそうな寒さで、重油のきついにおいがした。 ・すくってもすくっても重油のくろいかたまりがおしよせてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ねえ、お父さん、この海はもうだめなの？死んじゃうの？」子どもたちの言葉に、長谷川さんははっとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で考えなさい。ボランティアというのは、自分で考えてやるものだ。」長谷川さんはきつい調子で言った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故から3ヶ月、黒い重油におおわれ死んだといわれた日本海は、30万人ものボランティアの手で青さを取りもどし、よみがえった。
<p>登場人物の心の動き</p>	<p style="text-align: center;">社会奉仕、公共心</p> <p style="text-align: center;">(落胆) (不安)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひしゃくで重油をすくい、バケツリレーで陸まで運んだ。 ・どの人もみんな、もくもくと働き続けた。 	<p style="text-align: center;">社会奉仕、公共心</p> <p style="text-align: center;">(希望) (決意)</p> <p style="text-align: center;">(不安)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見ているだけではだめだ。自分でも何かしなければならぬ。 	<p style="text-align: center;">社会奉仕、公共心</p> <p style="text-align: center;">(喜び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「じぶんで考えなさい。ボランティアというのは、自分で考えてやるものだ。」 	<p style="text-align: center;">社会奉仕、公共心</p> <p style="text-align: center;">(喜び) (達成感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ではまた会おうね。元気でね。」
<p>児童の反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重油をなんとかしてなくしたい。 ・もとの景勝地の姿を取り戻すぞ。 ・凍りつきそうな寒さと重油のきついにおいがつらい。 ・本当に重油をとりきれののだろうか。 ・自分は役に立っているのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見ているだけでは、海は元通りにならない。 ・自分も何かできることがあるはずだ。 ・役場は電話の対応だけで精一杯だ。 ・地元の私たちが受け入れ組織を作らなければ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えて活動できたんだ。えらいぞ。 ・みんなのために自分ができることを進んで考えられてよかった。 ・ボランティアは自分で考えてできることをするものなんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の役に立ててうれしい。 ・ボランティアに参加してよかった。 ・もとのきれいですきとおった海にもどせてよかった。 ・きついこともあったけれど、やり通せてよかった。 ・困っている人がいたらまた働こう。
<p>発問</p>	<p>○すくってもすくってもおしよせてくる重油を見たとき、ボランティアの人たちはどんな気持ちだったのでしょうか。</p>	<p>○長谷川さんは、どんな気持ちでボランティアセンターを作ったのでしょうか。</p>	<p>○長谷川さんは、どんな思いで緑ちゃんに「ごろうさま、緑。よくがんばったね。」と声をかけたのでしょうか。</p>	<p>○ボランティアの人たちはどんな思いで三国町を去って行ったのだろうか。</p>